



## S&Pが米国債格付けを一段階引き下げ

米格付け大手スタンダード・アンド・プアーズ(S&P)は5日、米国債の長期信用格付けを現在の「AAA(トリプルA)」から1段階下の「AA(ダブルA)プラス」に引き下げると発表した。S&Pが米国債をトリプルAから格下げするのは、1941年に開始した現行の格付け制度下で初めて。大手格付け会社による米国の格下げも初。

S&Pの声明文によると、米オバマ政権・民主党と野党共和党は、政府債務の上限引き上げ交渉で、前提となる財政赤字削減を10年間で最大2兆4000億ドルとすることで合意。同額の上限引き上げを認める法律が2日に成立したが、財政赤字削減計画が米国の債務の安定化には不十分であることを理由としている。

また、見通しは「ネガティブ」を維持。同法案を巡る協議の混迷を受け、政府・議会がその削減計画を実行できるかに疑問があることなどが理由。「米国の政策決定や政治制度の効率性、安定性、予見可能性が弱まっている」と政治の問題点を強調しており、今回合意した法案では、裁量的支出を今後10年間で9170億ドル削減した上で、さらに最低1兆5000億ドルを削減するための特別委員会を設立して与野党が交渉することになるが、広範な財政再建策の早期策定は困難だと判断した。赤字削減が合意水準を下回り、金利が上昇し新たな財政面での圧力が浮上した場合は、今後1年から1年半の間にさらなる格下げが行われる可能性がある。

金融市場では今後、格下げに伴う米国への信認低下で、世界の基軸通貨であるドルや米国の株式・債券などが売られる「米国売り」が強まる懸念がある。さらに、米金利の上昇などを通じて、回復の足取りが鈍い米経済や世界経済に悪影響を与える恐れがある。

### S&Pの主要国の長期格付け一覧(8月6日)

#### 【AAA】

英国、ドイツ、フランス、カナダ、オーストラリア、オランダ、シンガポール、スイス、スウェーデン、香港、ルクセンブルク

#### 【AAプラス】

米国、ベルギー、ニュージーランド(外貨建て)

#### 【AA】

スペイン、アブダビ、カタール、クウェート、スロベニア

#### 【AAマイナス】

日本、中国、台湾、サウジアラビア

#### 【Aプラス】

イタリア

#### 【BBBプラス】

アイルランド

#### 【BBBマイナス】

ポルトガル

#### 【CC】

ギリシャ

また、ユーロ圏財務相会合のユンケル議長(ルクセンブルク首相)は、1日付の仏紙フィガロとのインタビューで、「米国債が最高位のトリプルAから格下げされた場合、ユーロ圏を含む残りの世界が影響を避けられたら驚きだ」と語っている。米国債格付けの引き下げにより、一部金融機関のドル調達などに支障が起これば、ギリシャに対する第2次支援の枠組みにも少なからず影響を与えるため、欧州の債務問題が再燃する可能性があることにも注意したい。

国際通貨基金(IMF)が3日公表した6月の統計によると、韓国やタイなど新興国の中央銀行は、西側諸国の国債やドルやユーロなどの通貨への信頼が薄れている兆候が見られる中で、外貨準備高に占める金塊の割合を増やしているが、今回の米国債格付け引き下げは、この傾向を強めことにもなりそうだ。